

小中高120人

プロ指導で音楽劇

ぐんま国際アカデミー



プロダンサー（左）から振り付け指導を受ける児童たち（2日、太田市西本町のぐんま国際アカデミー初等部で）

私立小中高一貫校「ぐんま国際アカデミー」（太田市）の児童生徒約120人が9日、みどり市笠懸町阿左美の笠懸野文化ホールで、音楽劇「The Four Seasons」を披露する。地域力を生かした文化のモデルを発信しようとして、国際的オペラ歌手の中嶋彰子さんが脚本から演出まで手掛け、各分野のプロや、地元ボランティア約130人も参加する大規模なものだ。

オペラ歌手・中嶋さん脚本演出、9日披露

「Like this（こんな感じで）」。同校で2日、児童らがプロダンサーの指導で、両手を広げてリズムを取っていた。ほかの教室でも、児童生徒やボランティアらが、ギターに合わせて歌ったり、衣装や道具を作つたりと、準備は大詰めを迎えていた。

オーストリア・ウィーンを拠点に活躍する中嶋さんが、英語で授業を行つて、国際的に活躍するプロが通訳なしで指導できる同校に約1年前に提案し、実現した。中嶋さんのほか、デンマーク人指揮者のニ尔斯・ムースさんや、長野五輪のセレモニー衣装などを手掛けた舞台衣装デザイナーの桜井久美さんらプロ約10人も指導にあたつている。

音楽劇を通して児童生徒の「ミュニケーション能力を養うのが狙い。中嶋さんは「協力して一つのものを創ることで、個々の違った良い所を認め合え、自分を表現出来る力が身に着く」

と話す。練習に汗を流して、いた同小5年のローリー・マヤさん（10）は「最初は恥ずかしかつたけど、やっていくうちに自分が変わった」と目を輝かせていた。

児童生徒が四季について書いた作文や詩、絵など約600点のうち約半数を取り入れた約1時間20分の作品で、四季の自然や人間の姿を歌やダンス、詩の朗読で表現している。児童生徒や保護者、地元ボランティア歌手らも登場する。今回の舞台を作るには通

常約3000万円かかるといふが、地元ボランティアの人々が衣装や大道具の材料を提供したり、作つたりして約300万円に抑えることが出来たという。長引く不況で、特に地方で文化振興費が削減される中、中嶋さんは「お金はなくても高

いレベルの芸術は出来る。地域力を生かした新しい形の音楽劇として今後も取り組みを続けていきたい」と話している。本番は9日午後4時から。定員約800人。鑑賞無料で、要予約。問い合わせは同校（027-633-7711）へ。